

科目番号	52117	分類	生殖健康学	履修者	高度実践助産コース	学年				
科目名	ウィメンズヘルス演習 (Practicum for Women's Health)						1			
							配当セスター			
							通年			
担当者	○朝澤恭子	区分	助産師プログラム	必修	単位	2	時間数	30		
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連				
【概要】 ウィメンズヘルスにおけるリプロダクション領域に必要な助産のケアモデルを構築するために、実践を通じ対象と助産および環境との相互作用をとらえ考察する。 【目標】 1.思春期、成熟期、更年期、老年期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性への看護実践を通して、対象および助産の特徴を分析し、ケアモデルを検討する。 2.助産の実践に用いる概念枠組みの明確化、助産のケアモデルの構造化と妥当性の検討を行う。							1.自律して自然分娩の支援ができる能力			
							2.院内・院外助産システムを担うことができる能力			
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力			
							4.周産期の救急時に対応できる能力			
							5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力			
						○	6.研究・開発能力			
							7.倫理的意思決定能力			
授業計画										
回	内容						担当教員			
1回～11回	各フィールドにおいて、月経異常、性感染症、骨粗鬆症、異常妊娠、異常産褥、乳房トラブルなど特定のヘルスケアニーズを持つ対象者へのクリニカルスタディまたは参加観察、インタビューにより、情報を科学的に分析する。 月経に関する指導、性感染症予防指導、乳がんアウェアネス指導、性教育、異常経過のある妊婦への母親学級などの対象の健康状況およびニーズに合った助産のケアモデルを検討し、記述する。						朝澤			
12～15回	ケアモデルおよびヘルスアセスメントのプレゼンテーション、評価									
事前・事後学習	事前学習：参考図書の該当部分を概観する。 事後学習：配布資料の復習および自己課題の加筆修正。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。									
評価の方法	課題成果物(50%)、プレゼンテーションおよびディスカッション(50%)を総合評価 プレゼンおよび成果物に関するフィードバックは適宜行う。									
参考図書・資料等	菅間真美(2008). 質的研究実践ノート. 医学書院 安田節之(2011). プログラム評価. 新曜社									
備考	学習方法： 各フィールドにおける個別・小集団指導の実施・見学、ピアグループ、サポートグループ活動の参加 プレゼンテーションとディスカッション オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。									